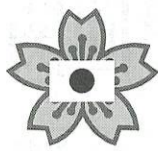


国防は最大の
福祉である
初代会長 故 高橋季義



國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心齋橋太陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 瀧野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第43号

(夏季号)

平成22年7月1日(木)
(皇紀2670年)
(大正紀元99年)
(昭和紀元85年)

関防会

第13回定時総会開催

参加者300人超す

さる5月29日(土)ラマダホテルに於いて第13回定時総会を開催。国家斉唱などの国民儀礼の後、約200名の出席者により提案議題は承認された。約200名の参加者は総会後の記念講演の講師・青山繁晴氏の名声に誘因されたと考えるが、講演会のみ出席者約100名を含めると総計約300名に達した。

青山氏の熱い憂国の講演要旨は2面～4面に掲載。

国防意識最大の危機

関防会 会長 瀧野 晃吉

本日は御多用のところ第13回定期総会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

先日は、西村真悟前衆議院議員、吉村副会長らとイスラエルを訪問した。4月19日は、イスラエル国民あげて戦没者慰霊祭、翌20日は建国62周年記念式典が開催され、招待された。記念式典における大統領演説は、誠に溢れ、堂々たるもので感服した。

また、イスラエルの諜報機関「モサッド」の元長官、元将軍と交流する機会を得た。

われわれは「日露戦争でユダヤ人の銀行家ヤコブ・ヘンリー・シフ氏の資金的支援によってロシアに勝利することができました。」と謝意を表した。す

本日は御多用のところ第13回定期総会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

先日は、西村真悟前衆議院議員、吉村副会長らとイスラエルを訪問した。4月19日は、イスラエル国民あげて戦没者慰霊祭、翌20日は建国62周年記念式典が開催され、招待された。記念式典における大統領演説は、誠に溢れ、堂々たるもので感服した。

また、イスラエルの諜報機関「モサッド」の元長官、元将軍と交流する機会を得た。

われわれは「日露戦争でユダヤ人の銀行家ヤコブ・ヘンリー・シフ氏の資金的支援によってロシアに勝利することができました。」と謝意を表した。す

まずはじめに、小林公平相談役が5月1日に逝去されたご報告をしなければなりません。誠に残念で本心に惜しい方を亡くしたと思ひます。心からご冥福を御祈りしたいと存じます。病氣療養中、小林相談役から「鳩山政権の政策運営は実にお粗末である。早期に退陣させなくてはならない。」と電話をいただきました。鳩山政権の最大の失政は日米同盟体制を悪化させたことである。米軍普天間飛行場移設問題は日本が申し入れ米軍がこれを受け入れ、13年かけて辺野古に決定した。この日米合意を揺るがす発言を繰り返し、8ヵ月迷走を招いた責任は重大で

ると、「第二次世界大戦でナチスドイツに苦しめられていた数万人のユダヤ人を救出してくれた日本人の存在は決して忘れない。」とお礼を言われた。また、イスラエルは「無数の偵察衛星により世界中の動向を常に把握している。」と軍事情報の収集に自信を示していた。無人偵察機等の武器は自国で製造しており、受注は2年半分あるとのことだった。

当方から、「貴国は中国に対して、サイルを輸出している。これは日本として容認し難い。再考して欲しい。」と申し入れてきた。最後に元将軍の言葉が印象的だった。それは「日本には米軍5万人がいる。この意義は大きいですよ。」という指摘だった。

記念式典では、フィリピンの将軍でUNDOF司令にもなつてきた。同将軍のフィリピンは同国にあつた基地から米軍を撤退させたが、その後中国軍が南沙諸島に侵攻し、それまでフィリピン領だった島に基地を建設されてしまった。

鳩山政権は普天間問題で迷走し、日米関係を悪化させたのみならず、沖縄の米軍基地反対に火を付けてしまった。米軍基地撤去につながるようなことになれば、フィリピンと同じく日本の尖閣諸島も同じ道を辿る。

この日米関係をみて、中国は東シナ海の活動を活発化させている。本有志が3月12日から2泊3日の日程で、沖縄を訪問した。その際、中国の日本領空、領海接近、侵犯が目立っていると聞いた。その後3月18日に中国の艦隊6隻が東シナ海から太平洋に出てきた。4月10日には中国軍艦隊10隻が沖縄本島と宮古島の海峡を通り太平洋に出て様々な訓練を行っている。さらに、日本の調査船が日本の排他的経済水域内で調査していたとき、中国艦船がしつこく追いついて「調査を中止せよ」と言ってくる中、中止をしない。

た事態が発生している。中国の軍事的拡張が我が国に現実的な圧力となつており、憂慮すべき状況となっている。そして、北朝鮮による韓国の哨戒艦攻撃により46名が死亡する事態となり、成り行きが予断を許さない。一方、国内では宮崎県で牛や豚の伝染病「口蹄疫」が発生している。10年前自

出することができた。当初130億円の対策予算を組んだが、後は直ちに宮崎県に行かず、秋田県に出向いている。担当の農林大臣が適切な措置をせずに「自分の対応の問題はない」と発言している。現政権の危機管理の欠如、無能ぶりがここにも出ている。

本日は青山繁晴先生を迎え、これらの状況を踏まえ、劣化した日本をどうたて直すか「祖国は蘇るのか」をテーマに日本を憂う先生の熱い魂の訴えを伺い、今後の我々の活動に活かしていきたいと存じます。



米国の海兵隊は陸海空軍とは別の組織である。この海兵隊について日本人はどの程度知っているのだろうか。1775年、対英独立戦争中に組織された。第二次大戦で大活躍し、第二次大戦のガダルカナルやサイパン島、沖縄進攻で激闘するも、1945年2月19日の硫黄島への敵前強襲上陸で生じた戦死501名は、一日の戦闘による戦死者としては創設以来最大の戦死者数であり、この記録は現在でも破られていない。激戦の硫黄島摺鉢山に星条旗が揚げられた日は後年「アメリカ海兵隊記念日」に制定された。そして2006年オープン海の海兵隊歴史ミュージアムは摺鉢山の星条旗掲揚をモチーフとしていた。

朝鮮戦争の仁川上陸、中国軍介入時の敵中突破で存続した海兵隊は、ヘリコプターと一体の機動戦力である。朝鮮半島、台湾海峡をめぐる中共軍、北朝鮮の動向などに即応できるのが沖縄の海兵隊なのである。

そのためには台湾まで633km、尖閣諸島まで約420km、ソウルまで1260km、竹島まで1280km、鹿児島まで655kmの場所にある沖縄への配置が最も妥当である。米海兵隊を駐留させるべきは沖縄である。この必然性を当初から無視しての昔聞の議論は現実を無視した危機意識に乏しい空論である。

関西防衛を支える会 第13回総会



挨拶する瀧野会長

本日は青山繁晴先生を迎え、これらの状況を踏まえ、劣化した日本をどうたて直すか「祖国は蘇るのか」をテーマに日本を憂う先生の熱い魂の訴えを伺い、今後の我々の活動に活かしていきたいと存じます。

関防会歴史勉強会 中島サロンの御案内

第26回 期日 平成22年8月21日(土) 午後4時開始
演題 スパイ天国・日本の現状と課題
日本が誇るハイテク情報が外国の諜報員によって海外に流出している現状に警鐘を鳴らす
講師 長谷川 忠氏
(昭和18年・東京生れ、元陸将補)
防大11期、陸上幕僚監部調査部、在パナマ防衛駐在官、小平学校情報教育部長、情報保全部隊指揮官など歴任、現在、情報保全アナリストとして活躍中

第27回 期日 平成22年10月9日(土) 午後4時開始
演題 日本列島壱萬年の知恵
民族自決を貫き列島を守ってた日本人のパワーに迫る
講師 山本 均氏
(株・きんでん京都研究所嘱託)
昭和46年3月近畿大学法学部卒、(株)真傳居合道連盟専務理事、鍛刀技術の歴史を通じて日本人の美意識、行動様式を模索

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅下車直上
キャッスルホテル3F (中国料理店) 会費 4,000円 (中華料理と酒代含む) 備考 自由出席ですが下記へFAXを頂けたら幸いです
FAX 06-4302-5187 (関防会)

第13回関防会定時総会



(株)独立総合研究所 社長

青山 繁晴氏

(昭和27年神戸市生、早稲田大学卒、元共同通信記者)

皆さんこんにちは。好天に恵まれた五月の土曜日の午後、大勢の方々が私の講演に足を運んでくださったことに感謝申し上げます。

先の大戦における陛下の御意

私は、かつて海軍兵学校七十五期卒業の方に対して講演をしたことがあります。その折、私は不遜にも「帝国海軍」を批判したことがあります。

「帝国海軍」を愛することに誰にも負けないという思いを持っている私が批判したには大きな理由があります。

それは、昭和天皇の大戦にたいする思いというものについて、陛下の、今は「元元側近の方から教えられたか」です。

その元元側近の方は「昭和天皇は、戦争中からリンカーンの胸像を寝室に置かれていました。戦局が厳しくなってきたら、その胸像を廊下に出されて手でできるようなしくみでかわるようになりました。青山さん、なぜだか分かりますか」とお聞きになりました。

私は「陛下のメッセージですね」と答えました。すると、その方は「昭和天皇の真意は、米英のような民主主義国とは戦争してはいけない。独自のような独裁国家と組んではいけない」とおっしゃったのです。つまり、陛下の御意は、米英との戦争には反対だったのです。その御意をリンカーンの胸像をもってお示しなられたのです」とおっしゃいました。

そのお話を聞き、又、他の方々の証言や多くの資料から「帝国海軍」が、「帝国陸軍」とともに英米との戦争を進めたことは陛下の御意に沿わなかったのだ、ということが理解できました。そのため、海兵七十五期の

皆様に、あえて批判的のことを申し上げました。しかし、海兵の皆様は、真々直々に受け止めてくださいました。私に話をしてくださった元元側近の方の話が全て真実だったかどうかわかりませんが、大東亜戦争を見直し、「あの戦争は何だったのか」とじっくりと考えるひとつのきっかけとなりました。皆さんも、自身で考えてください。

古代から続く万民平等

私は、よく講演会で「この国の主人公は誰ですか」とお聞きします。すると「総理大臣です」とか、「天皇陛下ですよ」との答えが返ってきます。

違います。我々一人一人が主人公なのです。私たちは、戦後の政治体制、安全保障体制についていろいろと不満をぶつけます。「自衛隊ではなく、正規の軍隊とすべきだ」とか、「米軍が我が国に駐留するのはおかしい」とか言います。

これらのことは、本当は我々、この国の主人公が意識せずに選んだというか、容認してきたのです。我々は、この国の「最終責任者」なのです。

考えて下さい。この国は皇室を中心とした極めて民主的な政治を二千年以上わたって続けてきました。まさに世界で唯一の国柄なのです。

このことに気付いたのは、ドイツのライン川沿いに並ぶ城郭を眺めていた時です。ドイツの皇帝や王様が住んでいた王城は、例外なく堅牢な石垣を積んだ要塞のような建物です。このドイツの王城と京都御所を比較してみると、いかにも日本の皇室が希有の存在に分かります。京都御所には掘割がありません。敵の攻撃を撃退するための防護壁がありません。世界にないものが京都にはあります。

我が国には、天皇陛下のもとで「万民は平等」という哲学があります。皇室は我が国統合の象徴であり、民衆と対立する存在ではないのです。このことは、なにも戦後始まったことではなく、古代から連続と受け継がれてきた日本の伝統であり、文化です。

このように考えていくと、皇室の存在がいかに大切なものかが分かります。皇室と民衆が一体となった日本の国柄は世界でただ一つのものであり、だからこそ世界に通用する普遍性があります。

日本の国柄を十分理解して国際社会との関係をどのように構築していくべきかを自身で考えてください。我々一人一人が、日本の「責任者」なのです。

では、なぜ戦後政治に関する国民の考えは混乱しているのでしょうか。我々は、「戦争に負けたから仕方がない」と言いつつ自身を納得させていないのでしょうか。「戦争に負けたから自分の軍隊を持つてはいけない」「戦争に負けたから占領軍に原案を作られた憲法でも変えてはいけない」と考えていませんか。

「戦争に負けたから仕方がない」という発想は、日本特有のもので、日本以外にはありません。日本は二千年以上も外国との戦争に負けたことがなかったからです。国家的に危ない時はありました。唐と新羅の連合軍に敗れた白村江の戦い、「元寇」ですね。でも、国全体が占領されたのは昭和二十年から七十年間が唯一の例外です。ところが、日本以外の国は何度も敗戦を経験してしまっています。欧州諸国は、負けたり勝ったりの繰り返しています。中国も、北方の異民族に何度も蹂躪され、占領されていきました。「元」という国家はモンゴルが漢民族を支配し、「清」という国家は満州族が漢民族を支配した国家ですね。

ですから、日本以外に負けることに慣れていません。日本と同盟を結んでいたドイツは、日本と同様に完敗しましたが、戦後「ドイツ国軍」を再建しました。正式には「連邦軍」と言います。決して「自衛隊」ではありません。

占領軍の憲法案は国際法違反
人類は歴史上戦争を繰り返してきました。近代以降、軍隊が保有する破壊力は急速に拡大し、一度の戦闘で何十万もの兵士や民衆が死に、一般の市民が十単位で殺害されるといふ事態が発生するようになりました。今までにないような破壊や殺戮を何と人間性の理性でコントロールできないかと考えて作られたのが国際法です。この国際法は「最低限のルール」です。

国際法には、「捕虜を殺すな」といった規範に加えて「負けた国の法を外国が制定してはいけない」というルールもあります。

明らかに日本国憲法は、GHQが十日足らずで作成した原案に基づいて制定されました。このGHQの行為は、間違いなく国際法違反です。勿論、原爆の投下も国際法に違反する戦争犯罪です。そして、国際法のどこに「敗戦国は自分の国の軍隊を持つな」というルールが盛り込まれていますか。

日本国憲法を、日本人の手によって作り替えるという作業は、極めて自然だし、国際的にも当然だと考えられています。

しかし、日本人は「戦争に負けたんだから」という理由で憲法改正に踏み込みようとしません。あるいは「学校で憲法を守ろう」と教わったから」という理由を掲げて動こうとしません。

私は、右翼でも左翼でもありません。まっとうな考えを持つとどうなるかです。立場を変えて、あるいは立場にこだわることなく、真々直々真ん中から日本を見直そうではないかというのが、私の基本的な提案です。

祖国は甦るのか(第四)

軍隊が保有する破壊力は急速に拡大し、一度の戦闘で何十万もの兵士や民衆が死に、一般の市民が十単位で殺害されるといふ事態が発生するようになりました。

今までにないような破壊や殺戮を何と人間性の理性でコントロールできないかと考えて作られたのが国際法です。この国際法は「最低限のルール」です。

国際法には、「捕虜を殺すな」といった規範に加えて「負けた国の法を外国が制定してはいけない」というルールもあります。

明らかに日本国憲法は、GHQが十日足らずで作成した原案に基づいて制定されました。このGHQの行為は、間違いなく国際法違反です。勿論、原爆の投下も国際法に違反する戦争犯罪です。そして、国際法のどこに「敗戦国は自分の国の軍隊を持つな」というルールが盛り込まれていますか。

日本国憲法を、日本人の手によって作り替えるという作業は、極めて自然だし、国際的にも当然だと考えられています。

しかし、日本人は「戦争に負けたんだから」という理由で憲法改正に踏み込みようとしません。あるいは「学校で憲法を守ろう」と教わったから」という理由を掲げて動こうとしません。

私は、右翼でも左翼でもありません。まっとうな考えを持つとどうなるかです。立場を変えて、あるいは立場にこだわることなく、真々直々真ん中から日本を見直そうではないかというのが、私の基本的な提案です。

緊急する朝鮮半島情勢
今年の三月二十六日、朝鮮半島西部の黄海において韓国の哨戒艦が突然爆発し、船体が二つに折れて沈没するという事件が発生しました。

事件発生直後、韓国政府は、米国、英国、スウェーデンの要員も加えた事件調査団を組織して綿密なる調査を行ないました。

この国際調査団は五月二十日、「この事件は北朝鮮の小型潜水艦から発射された魚雷攻撃によるものである」と発表しました。調査団の報告は、物的証拠を綿密に調べた客観的なもので、信頼性の高いものでした。

ところが、私は、その一週間前の五月十三日、我が国のインテリジェンス機関の当局者から「あの事件は、北朝鮮の金正日軍事委員会委員長が直接命令して攻撃したものです」という話を聞きました。

その時、私は「まさか、いくらなんでも北朝鮮がそこまでやるとは思えない」と反論してしまいました。「何かの間違いで、偶発的に起きた事件ではないのですか」

ともいいました。しかし、その情報当局者は「いや、決して偶発的な事件ではありません。金委員長からの命令による意図的な攻撃なのです」とおっしゃいました。

今では、この当局者の主張が正しかったことが証明されました。

新しい形の戦争の懸念
韓国の哨戒艦が北朝鮮の魚雷攻撃を受けて沈没したという事件には、もっと深い別の要素が付随しています。結論から先に申し上げますと「北朝鮮は、既に目に見えない新しい形の戦争準備に着手している。既に危険な行動を始めている」ということです。

私は、根拠なしにこのようなことを申し上げているわけではありません。一例を申し上げます。

今年の三月の初め、私のパソコンが破壊されました。しかも、ある特定の原稿フォルダが一定の量を超えるとクラッシュを起こすというものです。このことを前述の情報当局者に話すと、「青山さん、このパソコン破壊は北朝鮮によるサイバー攻撃の可能性が十分に考えられます」というのです。「サイバー攻撃」というものは、密かに敵のコンピュータシステムに侵入し、データを盗んだり、改竄したり、破壊したりすることですが、最近、中国ばかりでなく、北朝鮮もこの分野の能力を急速に向上させているようです。私のパソコンが破壊されるだけなら構わないが、もし政府諸機関の情報伝達システムや電力会社の送電システム、鉄道の輸送システムなども攻撃が準備されているとしたら、大変なことです。日本全体で危機感を持つて対応しないといけません。

北朝鮮は、核兵器の開発ばかりでなく、その他の大量破壊兵器を多数保有しています。つまり「生物兵器」と「化学兵器」です。

ノ連が崩壊したとき、北朝鮮にサリンやVXといった猛毒の化学物質が入りました。

「生物兵器」には天然痘ウィルスなどがあります。米国では、北朝鮮の破壊工員が北京空港から成田へ来る過程で、天然痘のウィルスを密かに機中で拡散することに対処するためのシミュレーションを実施しています。事態は、相当に緊迫しています。

天然痘は、一九八〇年に世界から駆逐されたと考えられています。ところが、米国と旧ソ連は、天然痘ウィルスを兵器として保有していました。

この兵器化された天然痘ウィルスが旧ソ連から北朝鮮に流れたと考えられています。中国も旧ソ連から購入したと考えられます。

一九八〇年に駆逐された天然痘ですから、一般の医者や天然痘を見たことがなく、診断方法や治療方法を知りません。

天然痘は、恐ろしい病気です。感染すると種痘を受け

たことのある人間でも約七パーセントが死亡するといわれています。種痘を受けていない人なら三十五パーセントの人が死亡するとされています。

今年の三月に明らかとなった北朝鮮の「新しい戦争」は決して脅しではありません。まさに現実の脅威として我々に影響を及ぼそうとしています。自衛隊と警察が緊密なる連携をとって「新しい戦争」という脅威に対処するべきです。

国連は実在するのか

私は、教えている大学で、新入生が入ってくるたびに、学生に質問しています。「国連は本当に存在しますか」と。すると、聞かれた学生は「ニューヨークに本部ビルがあります。ですから本当にあります」と答えます。

たしかにビルはあります。しかし、我々日本人が口にする「国連」、すなわち「国際連合」は実在していません。存在するのは、英語の「ユナイテッド・ネーションズ」、すなわち「連合国」、つまり第二次世界大戦で勝利したとされる「戦勝国」によって構成される組織です。

「国連憲章」を見てみますと、冒頭に「われら連合国の人民は」と書かれています。しかも、戦後六十数年経過しているにもかかわらず、いまだに、日本とドイツを対象とする「敵国条項」が存在しています。

我が国は「国連」の一員として世界で二番目の分担金を負担しています。それにもかかわらず、連合国、すなわち戦勝国で構成される組織に日本は「敵国」として加入しているという事実を知ることが大事なことだと思います。学生には「ニューヨークの国連本部ビルに行くと、誰でも入れるロビーを十五分程度歩けば、『ユナイテッド・ネーションズ』がどっついつ意味かを理解できる」と言っています。

日本は本当に資源小国なのか

最近、民主党のある若手の代議士が、国会で質問しました。「我が国は資源に恵まれない資源小国なので」と発言していました。

私は、その代議士に電話しました。「あなたは本当に日本は資源小国だと考えているのですか。あなた自身で勉強しましたか」と聞きますと、その代議士は「だっつて学校で教わったじゃありませんか」と反論しました。

その代議士の自覚を促したくて「米国エネルギー省の幹部の電話番号を教えてください、念のため確認してください」と申しました。

だいぶ時間が経過してから、その若手代議士から「青山さんの言われた米国エネルギー省へ電話してみました。すると、ご紹介いただいた幹部は次のように言いました。『日本は隠れた資源大国ですよ。でも、不思議なことに日本政府は、日本が資源大国であることを隠しています』」



エネルギー資源は 国家防衛の一環

と。今後は日本の天然資源についてもっと勉強します」とのことでした。

人間の埋蔵資源の利用は、石炭、石油、天然ガスへと拡大してきました。石炭は、石油に凌駕され、石油は次第に枯渇しつつあります。石油に代わるエネルギーとして天然ガスが注目されています。天然ガスに続く第四のエネルギーとして注目されるのが「メタンハイドレート」です。

「メタンハイドレート」は、十数年前から本格研究が始まりました。海底に氷の状態が存在しています。燃やすと、青い炎で燃えて、埋蔵資源の中で最も地球温暖化への影響が少ないのです。

ですから、世界中の関心を集めているのですが、海底でプレートが別のプレートにもぐり込む場所に多く存在します。プレートが他のプレートにもぐり込む場所は地震の多い場所です。つまり、日本の周辺に大量に存在することが分かってきました。

たとえば日本海側、新潟沖の領海内にも存在します。又、韓国によって不法に占拠されている竹島の周辺、さらには南西諸島の周辺にも存在していることが確認されています。

日本海側に例を取りますと、新潟の沖合、佐渡島の南の海底には「メタンハイドレート」が露出した状態

存在しています。

もちろん、太平洋側にも相当量が存在しますが、探掘しにくい状態で存在しています。海底に露出しているのではなく、海底の下深くに、泥や砂とメタンハイドレートが分子レベルで混じり合っているのです。

そこで、私たちは、我が国を資源大国として甦らせようと考え、日本海に調査船を出して探査するとともに、政治家にも働きかけて、超党派の研究会を設立しました。

石油メジャーを怖れる日本政府、財界

「メタンハイドレート」は日本海の海底に探掘しやすい状態で大量に存在することがわかっています。この資源を開発して日本経済のために活用することは日本が有する技術で可能となります。

資源輸入を止められて戦争までした我が国が、自前のエネルギー源を持つ絶好の機会が目の前にあるんです。ところが、日本海での研究開発には日本政府、石油産

業は動こうとしません。探査予算を申請しても、政府が認めたのは僅かな金額で、探査に必要な額の百分の一にも達しません。政府は、太平洋側には十年間で約五百億円を投じてきましたが、成果は上がっていません。ところが、そこに重点的に予算を投じる方針を変えません。政権交代によって誕生した民主党政権でも、根本的に

は変化がありません。日本の中枢部分を形成する人々はこのように主張するのです。

「世界のエネルギー秩序の維持を最大の目標とする国際的な石油メジャーは、戦争に負けた日本が資源大国となることを容認しないでしょう。彼らにさからって計画を進めるなら、場合によっては命すら危ないかもしれせん」

このように、日本政府と財界は、国際石油メジャーの思惑に遠慮しています。自前の資源を持つことが出来るのに、持とうとしません。

戦争に負けた国は「資源大国」になつてはいけないという国際法はありません。日本の国益は、国民の生活や経済活動に必要な資源を安定的に確保することではないですか。外国の圧力に負けて国益を損なうことは許されません。

ここでは、日本という国の真価が問われます。日本が、本当の自立した独立国として存在するために何が必要か、よく考えてみませんか。

自衛隊の存在価値は、国民の生命財産を保護することであり、国益を守ることで、自国の領海、排他的経済水域内の資源開発についても確固たる防衛態勢を構築しなければなりません。領海内にあるエネルギー資源の開発すら出来ないとなつたら、先の大戦で散華された英霊の方々に申し訳が立ちません。

主要な外国では、エネルギー資源は軍隊の管理下にあり、なせなら、エネルギー資源というものが国家戦略に直結するからです。

中国が開発しつつある東シナ海のガス田も人民解放軍の管理下にあります。

我が国でも、エネルギー資源は国家防衛の一環として考えるべきです。

韓国が「竹島」領有にこだわるのも、「竹島」周辺に存在する「メタンハイドレート」が重要なエネルギー資源だからです。

「領土問題」は「資源問題」でもあります。なお、日本と中国の間には「領土問題」は存在しません。尖閣列島はもともと日本固有の領土であることは国際社会で確認されたことです。

沖縄戦で散華した乙女たち

私がまだ新米の記者だった頃のことです。沖縄へ行き戦跡を訪ね歩きました。個人タクシーをチャーターして陸軍の牛島中将自決の地などを訪ねました。

すると、タクシーの運転手さんが、「どうしても訪ねて欲しい場所がある」と言われて連れて行ってくれたのが「白梅の塔」でした。この「白梅の塔」は、沖縄戦で少女たちが命を捧げた沖縄第二高等女学校の生徒看護隊を慰霊するための場所です。

この場所へ行きますと、有名な「ひめゆりの塔」とは異なり、訪問する人は誰もいませんでした。本土から来

る人ばかりでなく、沖縄の人もほとんど訪れません。忘れられた存在だったと言えます。

しかし、この「白梅の塔」に祀られている看護隊の少女たちは、「ひめゆりの塔」に祀られている第一高等女学校、師範学校の女学生と同様に、本土から送られてきた多くの将兵を懸命に看護したという点では何も変わりません。

「白梅の塔」を初めて訪ねたこの時、小さな丘の上に石積みがありました。石積みの右奥には暗い洞穴があり、少女たちが自決した場所です。その壁に参る前、石積みの裏にまわりますと、鍵のついていない鉄製のフタがありました。運転手さんがその鉄のフタをパツと開けますと、真っ白な、本当にいままで見たことのない白さの骨、看護隊について自決した少女たちの遺骨がギュ〜ギュ〜に詰め込まれていました。

運転手さんが言いました。「青山さん、ひめゆり部隊の慰霊塔は観光地として整備されていますが、ここは沖縄県民からも忘れられています」。

沖縄県民の運転手さんがおっしゃったのは、沖縄県民は「我々は戦争の被害者だ。加害者は本土の人間だ」と厳しく批判してきたのに、ここに祀られている少女達のこととはすっかり忘れてしまったではないか、少女達が何をしてくれたか決して忘れてはいけないことだ、と。

運転手さんは、言いました。「青山さん、お願いがあります。此処に祀られている少女達のことを忘れてはいけないと沖縄県民に言うて下さい。沖縄県民だけでなく、本土の皆さんにも伝えてください」。

私は約束しました。「生涯かけてこの『白梅の塔』の存在を忘れてはいけないことを誓います」と。

その後、月日が流れ、私は共同通信を退職し、研究所を立ち上げ、関西テレビのアンカーに出演することになりました。この関西テレビとの縁があったので、関西テレビに「白梅学徒看護隊の生き残りの方と一緒に探してください」とお願いしました。

そうしますと、四人の方が生存していることが判明しました。すべにこの四人の方とお会いして一緒に「白梅の塔」を訪ねました。

その時、私は、以前に見た遺骨のことを言いました。すると、四人の中のお一人が大きな声で「それは嘘です。あなたの思い違いでしょう。戦後すぐに慰霊塔と納骨堂を作りました」と言つたのを聞いてびっくりしました。なぜなら、以前に見た遺骨の白さはくっきりと脳裏に焼きついていましたから。何か事情があるらしいと感じましたので、何も言いませんでした。

その後、私は、自決壕の洞穴におりて、いつものように自決した場所の手をさすって静かに慰霊しました。壕から出てきましたら、先刻の方が「御免なさい。青山さん、私は嘘を申しました。私たちが生き残りの組は、戦後生活のために壕の面影を見る余裕がありませんでした」。

4 面下段へ続く

中島サロン 第24回 4月10日

関防会 歴史勉強会



元大阪市立大学工学部大学院助教授

工学博士 若林三記夫氏 (70才)

編集部註

昭和16年9月6日の御前會議(近衛公爵手記より) 陛下は(杉山參謀)総長に「事変は一箇月位に片づく」と申せしことを記...

その後、東一所属の師団は、昭和十七年十一月、南太平洋のガダルカナル島へ転用されました。東一が率いる中隊は敵の猛攻によく耐え、補給が欠乏する中、陣地を死守して翌年一月十四日戦死を遂げました。この時、東一が発したとされる「後に続く者を信ず」という言葉が後世に伝えられています。

戦略を忘れた日本軍

日本がアジアの先進国となれたのは、日清戦争と日露戦争に勝利できたことが大いに貢献しています。ご存知のように、当時の日本政府は戦争開始までに用意周到なる準備をしていました。

いつのときに戦争を始めて、どのようにして攻撃し、どのように終結するか、終結するためにどこに仲介を頼むということまで考えました。これが戦略といつものではないでしょうか。

ところが、大東亜戦争を開始する時点になると、先人たちの知恵が相当薄れてきました。支那事変勃発時、昭和天皇は杉山元帥に「支那事変は何時頃までに終わるか」とご下問されたそうです。この時、杉山元帥は「二か月

軍神・若林東一を思う

まで手放そうともしませんでした。若くして戦死した東一に対する強い思いが偲ばれます。

香港攻略戦で勲功を挙げた東一

大東亜戦争の初期段階において、東一は香港攻略戦中に中隊長として参加しました。昭和十六年十二月、歩兵第二二八連隊の斥候隊長として英国軍陣地を偵察に行ったところ、敵軍の配備に重大な欠点を発見したそうです。東一は、すぐに引き返して部隊長と協議、部隊長の承認を得て小隊を率いて敵の防壁陣地に突入して敵の中枢部分を占領しました。その甲斐あって短期間で九龍半島全体を占領するという快挙の端緒を切り開くことができました。敵の陣地は、当時東洋一の堅固さを誇り、陥落させるには半年はかかると言われていたのを、僅か十七日で陥落させたわけですね。

この時、香港攻略戦を進めていた師団司令部では「これは若林中尉の独断による奇襲攻撃だ。成功したからよかったが、一歩間違えば師団全体が危険に晒されたかもしれない」との声が上がり、一部の者は「若林を軍法会議にかけるべし」と主張しました。

しかし、折角奪取した敵の陣地を敵に返すのは忍びない、という現場の部隊長の主張により東一はお咎めなしとなったそうです。

で決着がつきましよう」と返答したそうです。次に、大東亜戦争開戦時、昭和天皇は、やはり同じ質問をしたそうです。すると杉山元帥は「五か月で終了できるでしょう」と返答したそうです。その際、天皇陛下は「太平洋は支那より遙かに広い」と言われたそうです。

実際は、杉山元帥の想定よりはるかに長期化したこと、戦役で示された合理的な戦術といものが欠落していたとしか考えられません。

敵の実力と自分の実力を比較して冷静に判断できたら、大敗北という事態は避けられたかも知れません。しかも、前線への補給を考えない作戦は無謀でした。きちんとした戦術と用意周到な準備があれば、南太平洋のガダルカナル島やその他の地域で多くの将兵が散らなくても済んだのではないかと思います。

戦後復興に貢献した軍人たち

大東亜戦争で我が国は惨敗しました。しかし、戦後復興は実に目覚ましいものがありました。我が国の最も優れた人材を教育した陸軍士官学校と海

3面から続く

でも、どうにかして遺骨を集めて慰霊したいと考えて、小さな石積みを手作りで用意し、しばしばは、やむなくそこに安置していました。こんなことがあった「白梅の塔」です。沖縄を訪問することがありましたら是非「白梅の塔」を訪ねてください。男性は自決壕の下から三段目の階段まで下りてくださった。少女たちの魂は「よぐ来てくれましたね。自分たちが守ったために日本は平和なんです。私たちの死は無駄ではなかったのです」と言ってお慰めてくれるはず

硫黄島の遺骨を取り返そう

最後に硫黄島の話を書かせてください。この島は東京都小笠原村にあります。日本の領土ですが、一般の日本人は立ち入り禁止です。でも、私には、どうしても自分の目で見てみたいと考え、いろいろと手を尽くしてなんとか島に入ることが出来ました。(〇六年十二月)

搭乗機が島の上空に近づくと、島の防衛隊で死んだ英霊達の声がありました。「返してくれ。故郷に戻してくれ」という声です。

我々の飛行機が降り立った飛行場、すなわち自衛隊機や海上保安庁機が毎日降り立つ滑走路の下には島で戦死した英霊の遺骨がそのまま取り残されているんです。ただ祖国のために命を掛け、戦死、あるいは自決した日本兵の遺骨が、いまだに、それも自衛隊の飛行場の滑走路の下に放置されているという事実が驚愕しました。こんなことが許されていいの

現在、私たちは英霊達の犠牲によって守られているのではないかと。戦後の日本人よ、硫黄島を忘れたままではないですか。滑走路を引き剥がして英霊達の遺骨を丁寧に引き揚げて故郷に戻して子供たちに、英霊たちが自分のためだけでなく人のために、私達のために死んだことを伝えませんか。

この硫黄島訪問の翌日、島で生き残った八十二歳(当時)の元海軍下士官にお会いし、この方が六十数年、水を冷やして南に向けて祈られているのを知りました。以来、私も冷水を南に捧げておりまして、現在、同じように捧げてくださいる方が一万人を超え、昨年(平成二十一年)一月、ついに政府は滑走路の引き剥がしを決めました。そこからきっと祖国は甦ります。

(文責・山本)

関防会 歴史勉強会

中島サロン 第25回 6月12日



桃山学院大学法学部教授

松村 昌廣氏 (47才)

全く異なる日中の秩序感覚

日本の国柄とか社会の本質は、中国と比較対照してみれば、初めに腑に落ちます。いや、そうしないと分からないとさえ言えるでしょう。

確かに、二千年に及ぶ日本と中国との交流により、日本は多くの、文物を大陸から導入してきました。具体的には、漢字、稲作、鉄器であり、儒教や仏教、そして「異服」と称される衣服などがあります。

これらのものは、長い年月をかけて、日本人の感性に合った日本独自の社会的な要素として日本社会に定着しています。

そのため、極めて多くの日本人が、いわゆる今日の「漢族」「中国人」は少数民族を無理やり含まれた人工的な概念は古代からそのまま民族特性を維持していると思込んでいます。しかし、それは全くの誤解です。私は、英語の「コンセンサス」という言葉から双方の民族性の真実に迫ってみたいと考えています。

「コンセンサス」という言葉は、我が国では「常識」と訳されていますが、私は「このような政治秩序が望ましいか」という点に関する「共通感覚」と訳すべきだと考えています。

日本人の「共通感覚」と中国人の「共通感覚」は全く異なります。単に異なるだけでなく、逆の方向を向いていると考えた方がいいと思います。

中国人の「共通感覚」は一言で表現すれば「強い中央政権(専制的な権力集中)」です。一方の我が国の「共通感覚」は「権力の分散化」です。この両者の基本的な相違は、極めて異なる地勢上の特色とそれに制约さ

激しい人口の増減

そして、重要なことは、北部の草原地帯から異民族が侵入しやすい地形であるという点です。

利用可能な国土が限られ、多くの人口が存在したため、慢性的に食料・物資が欠乏しました。さらに、「易姓革命」を是とする観念は激しい殺し合いを伴う権力闘争を呼び、戦乱・国土の荒廃・飢饉の連鎖の歴史となったのです。

加えて、前述のように、北方民族が隙あらば攻め込もうとしており、大きな戦乱の危機を常にらむ状況下にありました。

したがって、戦乱と飢饉が同時に発生すると、人口がいきなり十分の一になることもありました。事実、漢王朝が滅んで魏・呉・蜀の三国が鼎立し戦乱が常態化したと、それまで五千万人くらいだった人口が一挙に五百万人程度まで減少しました。(これ以外にも王朝末期の不安定期には数回数千万人単位で人口が減少しています。)

三国時代の極端な人口減少は、北族、すなわち北方の少数民族の移入・流入による労働力確保により解消されたのです。ここに我々日本人が憧憬して止まない古代中国との深刻な民族的、文化的な断絶があるのです。

さらに、「元」や「清」のように政権中枢が異民族によって占拠されると、古代の漢人が持っていた民族性は希薄となり、北方民族の猛々しい特性が「共通感覚」の深い部分へ浸透しました。

そのため、日本人が抱いている「漢人の文化」「漢人の徳性」といったものは、その後漢人化した北族社会では文字の上だけの建前となり、「自分以外の人間を信じない」「自己主張しなければ生きていけない」という「共通感覚」が形成されることになりました。

私の中国認識

もの、その後漢人化した北族社会では文字の上だけの建前となり、「自分以外の人間を信じない」「自己主張しなければ生きていけない」という「共通感覚」が形成されることになりました。

一八九五年に消滅した中華秩序

私は、「中華秩序」は紀元前二二一年に成立して西暦一八九五年に消滅したと考えています。

どういふことかと言えは、紀元前二二一年に「秦」という統一国家が成立し、言語(文語、贗度量衡が統一されました。そして黄河領域の「中原」を中心として、周辺に存在する漢人以外の集団を「夷狄」とする強い観念が成立しました。この、いわゆる「華夷秩序」こそが漢人社会の基本原理なのです。

この「華夷秩序」が、日清戦争後、西暦一八九五年に日本との間で締結した「開港条約」によって最後の朝貢国・朝鮮が独立したため、実質的に消滅したと、私は捉えています。すなわち、「華夷秩序(対内的には、「中華秩序」)は、朝貢す

る国や属国の存在なくして存立しえないからです。

このことは、明治維新を成し遂げた日本の台頭が「中華秩序」を根本から突き崩したとも言えます。この意味で、日清戦争での敗北が「中華秩序」に与えた衝撃は致命的だったのです。

これに加えて、西欧社会で成立した近代自然・社会科学が日本人の訳した「和製漢字」によって中国へ移入されました。こうした単語が今日中国で使用されている自然・社会科学の用語の大半を占めています。近代化しようとする「和製漢字」をベースとしなければならず、文章による意思疎通が必須の多言環境では、これまた致命的なことなのです。

ですから、現在、中国を支配している共産党政権が国民の団結、調和を叫んでみても、そのために必要な秩序感覚や紐帯が極めて弱いのですから、うまくいきません。ですから、共産党政権は、日本を「仮想敵」として際立たせ、「反日」を梃子として民衆をなんとか団結させざるを得ないのです。

越えられない日中の溝

対する日本社会は、前述しましたように「政治権力の分散化」を強く求める「共通認識」を持っています。西欧社会と共通する部分がありますが、日本の場合は、西欧社会以上に「分散化した政治秩序」を是とします。中国とは善隣互恵は可能であっても、友好協力は不可能なのです。



松村教授を囲んで

英霊感謝祭

大阪護国神社では左記日時に戦没者慰霊祭を催します。自由参加ですので時間の許す方はぜひご参加ください。

日時 八月十五日(土) 午後三時
場所 大阪護国神社
住所 大阪府八尾市
地下鉄四ツ橋線
住之江公園下車すぐ
一丁目出口

*電話 〇六一六六八一三三七二

陸上自衛隊八尾駐屯地

納涼花火大会

日時 8月5日(木) 午後6時から
場所 大阪府八尾市 空港1-81
電話 0729-49-5131 (広報室)
詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

陸上自衛隊千僧駐屯地

納涼大会のご案内

日時 8月5日~6日(金) 午後6時から
場所 兵庫県伊丹市 広畑1-1
電話 072-781-0021 (広報室)
詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

陸上自衛隊伊丹駐屯地

納涼大会のご案内

日時 8月26日(木) 午後6時から
場所 兵庫県伊丹市 緑ヶ丘7-1-1
電話 072-782-0001 (広報室)
詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

この未曾有の非常事態に對して迅速に対処せず放置していた民主党政権。村山政権と同じ民主党政権。村山政権には危機管理意識、国防意識がない。また村山がまさかそうである。あの鳩山首相の「いのちを守りたい」発言は薄っぺらい夢想でしかなかった。

「酪農家は家族のように大事な家畜たちの最期に、一番上等な餌を食わせて、頭をなでてやって、乳房をふいてやって、そして目の前で殺処分されていくんですよ。仲間がどんどん殺されていく姿を見て牛たちはパニックにおちいって逃げまじって、その悔しさがわかりまじい」と無念の涙で叫んでいる。

酪農家たちの地獄の苦しみ、そして13万頭も殺される家畜たちの哀れ。ここまで放置した政府は総辞職すべきである。この緊急を要する大事業に赤松農水相は、左翼である彼の憧れの地、キューバへ外遊してご満悦。そして帰ってきてからは「いささかも外遊のために支障があったとは理解していない」と反論する。

口蹄疫発生当初から現場が放出を要望している消毒剤にビルコンがある。バイエル日本支社の社長が必死になって1500本のビルコンを確保した。しかし「口蹄疫はアジア全体に蔓延しており、日本一の問題ではない」と、小沢と岡

無能なり民主党政権 政府殺りく人、家畜

石黒大圓

赤松農相はこのような事態を見て見ぬ振りをして対処が遅れ、そのくせ韓国へは異様な配慮をする。それもそのはず、「民主党政権赤松隆衆議院議員、次々と発覚するパチンコ屋との癒着」との記事がある。

「赤松とパチンコ業者との関係は、父親の故赤松勇代議員(旧社会党)が築いた遺産だと言われている。赤松自身も具議の時

田が500本を韓国や中国に無償で提供した。さらに500本を小沢の地元東北に。東北の畜産は宮崎のライバルのゆえか?

そして九州に来たのは500本のみ、そのうち250本は数万頭規模の大手が独占。しかも宮崎1区のみ議員が選挙支援した農家に50本を横流し。最終的に被害が一番ひどい川南地区に届いたのは20本のみ。

韓国が発生源だという説は10年前の口蹄疫発生で既に浮上しており、それ以降当時の自民党は韓国、中国からの家畜飼料の輸入を禁止した。ところが民主党政権になった直後、去年9月に輸入を解禁。口蹄疫が感染していると思われる豚肉

また今年の1月に宮崎のある水牛農場に韓国から研修希望があったが、韓国は口蹄疫発生国のため農家はこれを拒否。ところが民主党のD議員が権力を背景に強引にこれを実行。その後この水牛農場と接触を持ったところから徐々に口蹄疫が発生。現場ではこれが発生源ではないかと推測されている。

赤松農相はこのような事態を見て見ぬ振りをして対処が遅れ、そのくせ韓国へは異様な配慮をする。それもそのはず、「民主党政権赤松隆衆議院議員、次々と発覚するパチンコ屋との癒着」との記事がある。

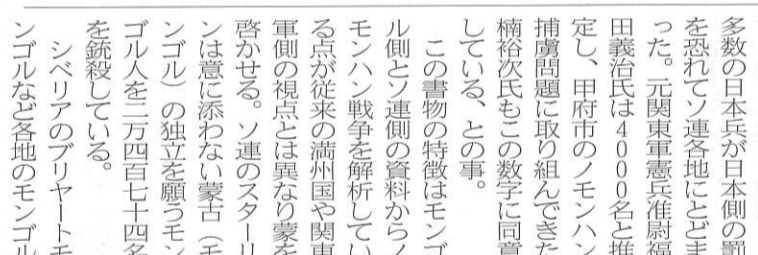
代から、社会党の皮を被ったアルジョワ、と皮肉られてきた。

赤松に献金するパチンコ業者の中には暴力団との関わりがあると噂される業者もあり、北朝鮮による邦人拉致事件が注目をされてい

民主党は日本の国益に目が行くより、選挙や外国へ常に目が向いている。この口蹄疫事件は民主党政権による国家犯罪。一日も早く宮崎の畜産農家の方々がこの苦難から立ち上がり復活をとり戻すことを祈り、私からわずかばかり救済カ

ンパをお送りいたします。

大阪護国神社に於ける海軍慰霊祭 (5月30日) 海上自衛隊儀仗隊員



祝辞を述べる日高中部方面幕僚長 (5月29日)

『ノモンハン戦争』モンゴルと満洲国 田中克彦著 岩波新書(文庫本) 平成二十一年六月刊 定価七百八十円

ノモンハンとは地名ではなくチベット仏教(ラマ教)の僧の位階を示す名である。この接点に発生した国境紛争による昭和14年のノモンハン戦争により関東軍は二万人をこえる兵士の命を捧げて、結果的には中国共産党のために内蒙(内モンゴル)を奪って中国領土を広げたことになると言っている。

関東軍とソ連軍の停戦協定により一対一の捕虜交換で帰ってきたのは204名とされているが、これらの捕虜は重症を負っていた兵士である。しかし平成13年のモンゴル、ロシア、日本の3者のシンポジウムでロシアのワルター・ノフ大佐の言い分によれば、実際には多数の日本兵が日本側の罰を恐れてソ連各地にとどまった。元関東軍憲兵准尉福田義治氏は4000名と推定し、甲府市のノモンハン捕虜問題に取り組んできた楠裕次氏もこの数字に同意している、との事。

この書物の特徴はモンゴル側とソ連側の資料からノモンハン戦争を解析している点から従来の満洲国や関東軍側の視点とは異なり蒙を啓かせる。ソ連のスターリンは意に添わない蒙古(モンゴル)の独立を願うモンゴル人を二万四千七十四名を銃殺している。

シベリアのアリヤートモンゴルなど各地のモンゴル民族を糾合して汎モンゴル主義の独立国家の建設をモンゴル人蒙古人がいかに希求していたかを詳述している。ノモンハン戦後六十年にしてモンゴル人民共和国が外蒙がソ連の崩壊により名実と共に独立した。が内蒙(内モンゴル)は漢民族の流入により中国人民共和国の自治区となったが遊牧モンゴル人は人口比10%ぐらゐに激減して民族消滅の危機にある。この現実が冒頭に記した中国領土拡大に寄与したノモンハン戦争の帰結であると言者は言う。満洲問題に興味のある人には必読の書である。著者は昭和十一年生まれ、一橋大学の名誉教授(新川記

民族を糾合して汎モンゴル主義の独立国家の建設をモンゴル人蒙古人がいかに希求していたかを詳述している。ノモンハン戦後六十年にしてモンゴル人民共和国が外蒙がソ連の崩壊により名実と共に独立した。が内蒙(内モンゴル)は漢民族の流入により中国人民共和国の自治区となったが遊牧モンゴル人は人口比10%ぐらゐに激減して民族消滅の危機にある。この現実が冒頭に記した中国領土拡大に寄与したノモンハン戦争の帰結であると言者は言う。満洲問題に興味のある人には必読の書である。著者は昭和十一年生まれ、一橋大学の名誉教授(新川記

編集後記

*定時総会は盛況であった。講師のネームバリューに因ると思ふが、事実熱の籠もった内容であり、沖繩戦に言及した時、青山氏は涙を堪えていたようだった。

*山梨県出身の軍神・若林

東一大尉の略歴は承知してしたが、まさか継嗣が大阪に住んでおられると知る由もなかった。ある書物に大阪市立大学で教鞭を執っておられると記されていたのでそれを頼りに調べて講演を御願した。

*松村教授の「私の中国認識」はスタンダードな演題ではあったが、内容は大陸の人口動向からの切り口で斬新であった。歴代異民族の支配を受けた漢民族の成立特徴が良く解かれていて蒙を啓かれた。

*「乙女の祈り」鳩山政権が崩壊したとおもったら、赤い小沢一郎と異名をとる仙石官房長官を戴くお遍路総理が誕生した。無能民主党政権の口蹄疫対策を鋭く突く石黒氏の論考は週刊誌も報じていない内容で、この政党の本質を良く表している。(新)

関防フォトフラッシュ



『浜野ゆき子後援会』世話人の集い 浜野ゆき子 (33才、日本創新党、和服) 後援会設立に馳せ参じた関防会員 (6月6日)

航空自衛隊小松基地航空祭見学と山中温泉宿泊の旅のご案内

日時 10月2日(土)～3日(日)

場所 航空自衛隊 小松基地(石川県) ブルーインパルス展示飛行見学 航空自衛隊の各種飛行機の展示飛行あり 越前竹人形の里、伝統工芸村、世界ガラス館など見学、山中温泉宿泊

費用 29,000円(お一人)

主催 関西防衛を支える会

住所、氏名、年令電話番号を記入のうえ下記FAXへお願いします

関防会・事業部長 山下弘文 (FAX072-957-5982)

締め切り 8月10日(火)先着50名様

備考 参加申し込みの方には振込用紙及び旅程詳細をお送りします

死んでたまるか!!

田幸教授(琉球大)開発の特許商品!! 沖繩モズクと北海道産真昆布がコアの純粋フコイダンとダブルで配合!! 生活習慣病が気になる方に...

Fucoidan フコイダン

【フコイダンZ】150粒(25~50日分) 25,000円 お試し用30粒入り2,000円とお徳用350粒入り50,000円もあります。

Beauty Health Laboratory ビー・エイチ・ラボ

〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10 TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824 携帯・PC共通 http://bh-labo.net

送迎車両の運行と管理は 安心・安全の弊社へ!

人員送迎の

- 乗用車・ワンボックス車
- マイクロバス・大型バス

運転請負の専門会社

社団法人 日本自家用自動車管理協会(正会員)

株式会社 サンワ運行委託

フリーダイヤル 0120-77-5645 URL http://www.sanwa-drivers.co.jp/

本社 〒570-0032 大阪府守口市菊水通2-19-1(菊水第二ビル) ☎06(6993)5645 FAX06(6993)5644

神戸支社 ☎078(652)5645 京都営業所 ☎075(599)5645